

 書評

 精神医学講座担当者会議 監修/佐藤光源, 丹羽真一, 井上新平 編
統合失調症治療ガイドライン(第2版)

鮫島 健

首尾一貫した明瞭な疾患概念。すべての精神科医療者に贈る良書

「統合失調症治療ガイドライン」は、初版以来約4年ぶりに改訂第2版が出版された。精神医学の最新の進歩を広く取り入れながら、エビデンス・ベースの治療ガイドラインをめざした本書は、発刊後多くの医師だけでなく多職種精神科医療関係者に読まれ支持されてきた。

本書は「治療ガイドライン」でありながら、第1章疾患の概念のなかで、統合失調症の概念、疫学、臨床症状、経過と転帰などが簡潔に要領よくまとめられていて、必要で最新の知見の概要を学ぶことができるように構成されている。また、第4章その他の重要な問題として、自殺、身体合併症、早期精神病などが取り上げられており、第5章の今後の改訂と研究成果への期待では、脆弱性-ストレス-対処モデルの精密化など、統合失調症に関する今後の重要な課題のいくつかについてわかりやすく述べられている。

ちなみに、本書は全体的に疾患概念として、脆弱性-ストレスモデルが採用されていて、この観点から臨床症状の理解や治療の選択が説明されている。専門家による分担執筆でありながら統一された解説となっているゆえんである。

第2章は本書の中心部分となる治療について、治療計画の策定という視点で詳述されている。まず、精神医学的管理では、医師-患者関係を確立して維持しながら、患者を全人的に理解し包括的な計画を立てて治療を進めていくなど、基本的な事項と治療計画の立て方が述べら

れている。具体的には、急性期治療、回復期治療、安定期治療という病期に分けて、症状の評価、治療の場の選択、薬物・身体療法、心理社会的療法について詳しく書かれている。さらに、安定期においては、治療の中止や再発防止・再発への早期介入の記述もある。網羅的ではあるが、標準以上の内容を具体的にわかりやすく説明され、治療オプションの推奨度が明記されているなど、実際の治療の参考として有益である。

第3章の治療法の解説では、薬物・身体療法、社会心理療法のそれぞれについて最新で十分な解説が書かれている。第2版は初版の全章を部分的に改訂しているが、特に第3章は大改訂されている。新規抗精神病薬に関して、最近発売された新薬の記載もあり、処方の際の留意点や重複と漸減の方法、交差-用量設定法、直接切り替え法など実際の技法も書かれている。社会心理療法についても、社会生活技能訓練、心理教育的家族療法、職業リハビリテーションなどに、認知行動療法、ACT、ケアマネジメント、自助グループについての最新の知見と解説が今回書き加えられ、今日的な内容になっている。

本書は、精神科病院管理者、精神科医師、研修医師、看護師をはじめメディカル職種のスタッフ、学生など広い範囲の人々にそれぞれに読まれるべき良書である。今後、継続して改訂され、さらに充実していくことを期待する。

(日本精神科病院協会会長/鮫島病院院長)

●A5 352 頁 2008 定価 4,935 円(本体 4,700 円+税) 医学書院